資料2

令和3年度

東京都市町村社会教育委員連絡協議会

交　流　大　会

・

社会教育委員研修会

明日に向け　学びの輪を広げよう！！

～地域の魅力　グローバル社会で再発見～

日時：令和3年12月11日（土）午後1時30分～

会場：府中市市民活動センタープラッツ　バルトホール

主催：東京都市町村社会教育委員連絡協議会

令和３年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会
交流大会・社会教育委員研修会実施概要

１ 趣　旨	人生１００年時代のこれからの未来に向け、社会教育＝学びあいが広がっていき、人や地域がつながっていくことが必要である。生活様式が変わりゆく中、人々によってはぐぐまれた地域の魅力を再発見していくことを目指す。
２ テーマ	明日に向け　学びの輪を広げよう！！ ～地域の魅力　グローバル社会で再発見～
３ 日　時	令和３年１２月１１日（土）午後１時３０分から４時３０分まで
４ 会　場	府中市市民活動センタープラッツ　バルトホール
５ 内　容	**■第１部　交流大会** ○式　典 開　会　都市社連協副会長　谷部　憲一（昭島市） 挨　拶　都市社連協会長　長畑　誠（府中市） 来賓祝辞　府中市教育長　酒井　泰　氏 東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課 主任社会教育主事　梶野　光信　氏 祝辞紹介　一般社団法人全国社会教育委員連合 ○第５２回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実施報告 ○各ブロック研修会実施報告 第１ブロック幹事　青梅市 第２ブロック幹事　武蔵村山市 第３ブロック幹事　稲城市 第４ブロック幹事　東村山市 第５ブロック幹事　狛江市 質疑応答 **■第２部　社会教育委員研修会** 郷土芸能を地域で受け継ぎ、発展させる ～武蔵国府太鼓の紹介とインタビュートーク～ 講師　武蔵国府太鼓　響会　会長　佐藤　祐三　氏 武蔵国府太鼓　響会　会長代行　市川　彰　氏 武蔵国府太鼓　響会　副会長　伊藤　三子　氏 武蔵国府太鼓　響会　役員　松村　薫　氏 武蔵国府太鼓　響会ジュニア所属　田中　礼侍　氏 閉　会　都市社連協副会長　篠﨑　光正（調布市）
６ 参加対象	多摩地区社会教育委員及び関係職員等

第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実施報告

報告者：令和３年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会
委員長　長畑　誠

開始日時	令和３年１１月１１日（木）　１３時００分～１６時２５分 ※アトラクションは１２時３０分～１２時４５分	
場　　所	府中の森芸術劇場　どりーむホール	
参加者数	２０１名	

テ　ー　マ	明日に向け　学びの輪を広げよう！！ ～地域の魅力　グローバル社会で再発見～

【概要】※新型コロナウイルス感染拡大に伴い、会場参加は都内の方に限定し、都外の方には記録動画の配信を行うこととした。

アトラクション　　元気一番！！ふちゅう体操（参加型アトラクション）

開会行事
　開会の言葉　　令和３年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会
　　副委員長　谷部　憲一
　主催者挨拶　　令和３年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会
　　委員長　長畑　誠
　　一般社団法人全国社会教育委員連合　副会長　金藤　ふゆ子
　来賓祝辞　　東京都教育庁地域教育支援部主任社会教育主事　梶野　光信　氏
　歓迎の言葉　　府中市教育委員会教育長　酒井　泰　氏

基調講演
　演題「みんながつくる＜社会＞へ
　　―人生100年時代、AI、そしてポストコロナ時代の社会教育―」
　講師　東京大学教授　牧野　篤　氏

トークセッション
　コーディネーター
　　東京学芸大学准教授・立川市生涯学習推進審議会委員　倉持　伸江　氏
　登壇者
　　東京大学教授　牧野　篤　氏
　　演出家（ミュージカルアニーほか）・調布市社会教育委員　篠崎　光正　氏
　　東海大学准教授・昭島市社会教育委員　二ノ宮リム　さち　氏
　　日本大学文理学部講師・町田市社会教育委員　吉田　和夫　氏

閉会行事
　主催者挨拶　　令和３年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会
　　委員長　長畑　誠
　閉会の言葉　　令和３年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会
　　副委員長　篠崎　光正

※進行　西牧　たかね（調布市社会教育委員）
※12月1日～1月31日（予定）まで、東京大会ＨＰ（https://syakaiky.wixsite.com/website）にて大会記録動画（手話通訳付き）を配信中

第１ブロック研修会実施報告

報告者：青梅市社会教育委員会議　議長　宮野　良一

開始日時	令和３年１１月６日（土）　１４時００分～１６時３０分		
場　　所	ネッツたまぐーセンター（青梅市文化交流センター）		
参加者数	５８名	幹事市	青梅市

テ　ー　マ	人口減少地域を支える社会教育
形式（方法）	ワークショップ

【概要】

開会

開会のあいさつ　青梅市社会教育委員会議　議長　宮野　良一
主催者あいさつ　東京都市町村社会教育委員連絡協議会　副会長
調布市社会教育委員の会議　議長　篠﨑　光正　氏
開催市あいさつ　青梅市教育委員会　教育長　橋本　雅幸

ワークショップ

ファシリテーター　萩元　直樹　氏（たま社会教育ネットワーク）
話題提供者：市民活動グループ「ゆめなりき」
事例①　地域資源（森林）を活かした時続可能な学びの実践
事例②　盆踊りを通じた地域の社会関係資本の醸成

事例を聴き、その後、１０グループに分かれて、１ラウンド１５分ごとで以下のテーマでグループワークを行い、各グループで話し合った内容を全体で共有（発表）した。

第１ラウンド：ゆめなりきの事例から学んだことの共有
第２ラウンド：環境・社会・経済を統合的に考え、人口減少地域での社会教育のアクションを考えよう
第３ラウンド：各班の発表（２分）に備えてまとめ

社会教育に関わる人たちが地域の中核となって、「楽しむこと」で他の人たちを取り込んでいくことがポイントとなるという話がファシリテーターからあった。

閉会

次期第１ブロック幹事市あいさつ　福生市社会教育委員の会議　奥村　雄二　氏
閉会のあいさつ　青梅市社会教育委員会議　栗原　郁夫

＜参加者＞

５８名（内訳：委員４１名・事務局１１名・ファシリテーター１名・話題提供者５名）
※青梅市事務局５名を除く。

● スケジュール

■開会

■ワークショップ前半（40分）

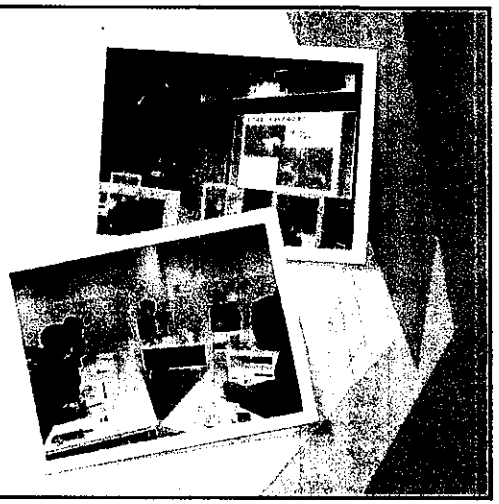
導入・事例紹介・課題の整理

《休憩》

■ワークショップ後半（85分）

グループトーク・共有・総括

■閉会



● ワークショップ前半

■ファシリテーター

萩元　直樹　氏

たま社会教育ネットワーク（たまいく）メンバー。文部科学省による社会教育士特設サイト及び動画によるプロモーションに出演。

■話題提供者

市民活動グループ「ゆめなりき」

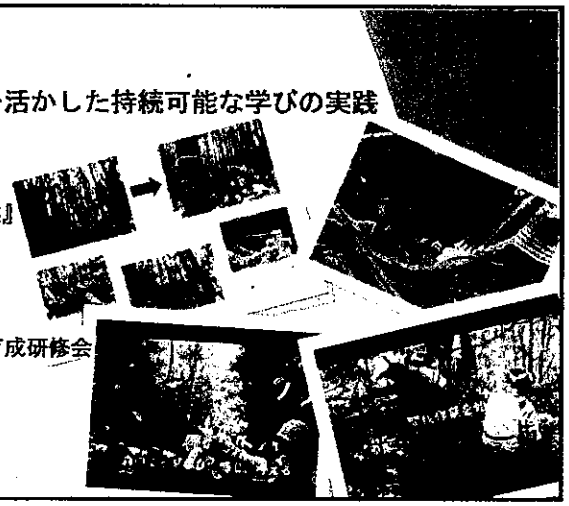
事例①　地域資源（森林）を活かした持続可能な学びの実践

事例②　盆踊りを通じた地域の社会関係資本の醸成

市民活動グループ「ゆめなりき」
「成木（なりき）地区」とは・・・
・バスは奥多摩駅に一本あるだけ
・スーパーもコンビニもない
・人口も減少の一途・・・
ない ないないない

事例①
地域資源（森林）を活かした持続可能な学びの実践

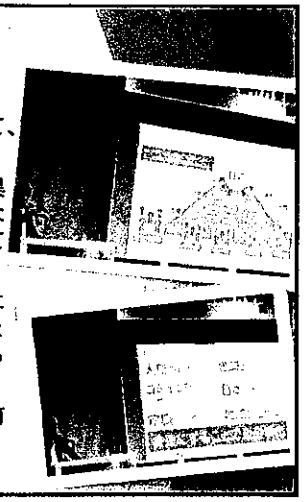
- ✓ 青梅市民提案協働事業
  『森林の魅力発信事業』
  平成２９年度実施
- ✓ 青梅市青少年リーダー育成研修会
  （第２回：野外活動）
  令和３年度実施



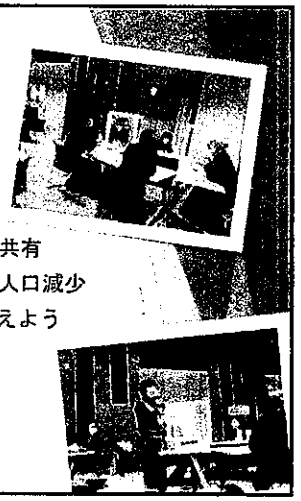
事例②
盆踊りを通じた地域の社会関係資本の醸成

課題の整理

- ✓ 必要課題に対するため、あらゆる地域協働によって、学び合い、育みえるような「関係づくり」が重要。
- ✓ 地域における多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きゆくこと。
- ✓ 社会教育の範囲も「環境・社会・経済」を一体的に考え、多様な取組主体と協働し、多様な取組主体と協働し、多様な取組主体と協働し、学び合いながら取り組む考え方が必要。
- ✓ 社会教育の範囲はどこまでなのか？　社会教育は何をできるのか？



● ワークショップ後半



■グループトーク（ ５～６人×１０班）
１５分×３ラウンドで、テーマごとに話し合い

- ✓ 第１ラウンド：ゆめなりきの事例から学んだことの共有
- ✓ 第２ラウンド：環境・社会・経済を統合的に考え、人口減少地域での社会教育のアクションを考えよう
- ✓ 第３ラウンド：各班の発表（２分）に備えてまとめ

■発表（共有）

第１ラウンド
ゆめなりきの事例から学んだことの共有

- メンバーが集まっていく過程でも、発信でもＳＮＳを利用していた
  これからはＳＮＳも重要な時代。
- 隣組、回覧板の重要性。
- 地元のイベント等に自ら入っていって、信頼関係を作っていった。現
  場に入っていくことが重要。
- 自分たちの問題として、連帯感を持って取り組んでいたのがいい。
- １年間でどうやって自治体とコンタクトを取り、どうやって組織化し
  ていったのだろうという疑問。
- 活動のスタートは、応募したら自治体の予算が下りたのがきっかけと
  のこと。お金・経済とつながるというのが大事なポイント。

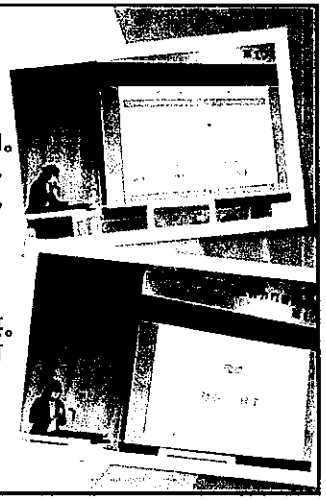
第２ラウンド
環境・社会・経済を統合的に考え、人口減少地域での
社会教育のアクションを考えよう

- グループの立ち上げや、認めてもらうのに苦労する。社会教育委員と
  して、地域の人たちとつなげる役目ができるようになりたい。
- 地域の真ん中に学校がある。子どもが輪の中心になって、その母親・
  父親グループ、祖父母の世代へと輪が広がっていくと、地域の活動は
  長続きする。
- 他所の事例を真似るだけでなく、地域の特性を生かす必要があり、自
  ら地域へ入って地域をよく知ることが長続きさせるためには必要。
- 自分たちから地域（自治会等）に入り込んでいき、人とのつながりが
  大切である。
- 余所者等が参加できなかったような伝統芸能等も、多様な人を受け入
  れていく体制が重要。

● 発表

- 続けていくには、「自分が楽しむこと」
  いことはやらない」がポイント。
- 社会教育は、複数の立場が異なる人たち（
  業・学校・行政など）とつながっていくこと
- 地域を愛する子どもたちをつくることが大切
  たちと関わる場を大切にしていくことが重要。
- 社会教育委員は、人と人とをつなぐ役割を担う
- 「ないものねだり」ではなく、「あるもの見つけ
  をすると「この地域もまんざらではない」と思え
- 大きな課題を地域レベルの課題に落とし込んで
  ることが大事。課題と行政をどうつなぐか、その
  社会教育委員の役割。

● 総括



- ✓ 社会教育の人たちが地域の中核となることが大切。
- ✓ 地球規模などの大きな問題も地域サイズにダウンサイジングして、自分たちのレベルに落とし込んで考える。
- ✓ 楽しむことが、学びの客体の人たちを主体に取り込むポイント。
- ✓ 環境・社会・経済を一体で考えていくことが重要。経済的な活動にも踏み入れていかないと、持続可能な社会教育は難しい。
- ✓ 社会教育が何ができるのか、視野を広げていく。

● 感想

- 社会教育の役割をむずかしくとらえてしまったが「楽しんでやれ
よい」という意見があって、そう堅苦しくとらえなくてもよいの
なと思えた。
- 自分の市、町内、地域に展開出来ればいいな！！と思います。“人
口減少”自体が悪いのではなく、人口減少による「地域コミュニ
ティの衰退」が課題。新たなキーワードになった。
- 難しい課題をあえて題材とし、皆で
意見交換することに、とても意義が
あったように感じました。ゆめなり
きの活動をヒントに自分たちの活動
をやっていければいいなと思います。

ご清聴、ありがとうございました。

第２ブロック研修会実施報告 報告者：武蔵村山市社会教育委員の会議　議長 齊藤　イト子

開始日時	令和 ３年１２ 月４ 日（土） １４時００分～１５時３０分		
場　　所	さくらホール会議室１・２		
参加者数	３６名	幹事市	武蔵村山市

テ　　ー　　マ	伝統文化を未来へつなげる社会教育
形 式 （ 方 法 ）	【第一部講演】拝島町の榊祭 【第二部講演】村山大島紬

【概要】
１３：３０～受付
１４：００～開会・挨拶
開会挨拶：武蔵村山市社会教育委員会議　議長　齊藤　イト子
主催挨拶：東京都市町村社会教育委員連絡協議会　会長　長畑　誠
開催市挨拶：武蔵村山市教育委員会　教育長　池谷　光二

１４：１０～第一部
　拝島日吉神社祭礼囃子保存会・昭島郷土芸能協会顧問　原島氏による講演会「昭島市拝島町榊祭りについて」

１５：０５～第二部
田房染織有限会社取締役会長、伝統工芸士　田代氏による講演会「村山大島紬について」
１５：３５～質疑応答

１５：４５～閉会・挨拶
閉会挨拶：次年度幹事市　立川市生涯学習推進審議会　議長　倉持　伸江

１５：５０　終了

東京都市町村社会教育員連絡協議会

第二ブロック研修会

武蔵村山市社会教育委員会議
報告：議長　齊藤　イト子

研修テーマ

[illegible]テーマ

- 「明日に向け　学びの輪を広げよう
  ～地域の魅力　グローバル社会で再発見～

[illegible]ブロックテーマ

- 「伝統文化を未来へつなげる社会教育
  （風習・お祭り×社会教育）

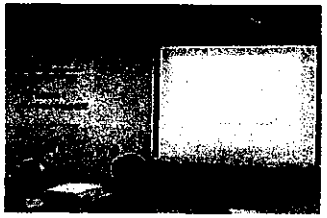
研修のねらい

伝統文化～伝統文化の具体例から

- 受け継ぐことの大切さ
- なぜ途絶えないのか
- どのように後世へ伝えていくのか

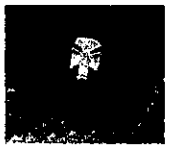
第一部講演
「昭島市拝島町榊祭りについて」

講師　拝島日吉神社祭礼囃子保存会・昭島郷土芸能協会顧問　原島　重夫　氏



・日吉神社の概要

・日吉神社祭礼の起源と現況



・榊祭の様子（スライド）

・榊祭の様子（スライド）

伝統を守り継承する

・興味関心を持ってもらう
・自らことを興す
・行政による補助
・節目を活かす

第二部講演
「村山大島紬について」」

講師　　田房染織有限会社取締役会長・伝統工芸士　田代　隆久　氏

大島紬を使った工芸品

人気アニメで登場する柄の反物

アンケート結果

・伝統文化をつなげるための努力や工夫をして、これから私たちがやれることを考える機会になりました。

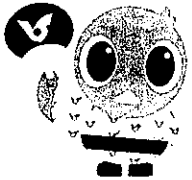
・伝統を守ることの大変さが伝わってきました。

・コロナの中で後回しにされていると感じる文化、芸術に触れることは人が人として生きるために大切な栄養であると思いました。

まとめ

長い歴史の中でなぜ息絶えない文化が存在するのか？途絶えないためにどのように、またどういった形で未来へ残してくのかという事を考える研修となりました。今回の研修を通じて、社会教育委員の皆様の今後の社会教育の活動へ「つなげていく」また「後世へ受けつぐこと」を考えていくひとつのきっかけになったのではないでしょうか。

ご清聴
ありがとうございました



武蔵村山市社会教育委員会議

第３ブロック研修会実施報告 報告者：稲城市社会教育委員の会議　議長　安東　道正

開始日時	令和３年１１月１２日（金）１０時００分～１２時００分		
場　　所	地域振興プラザ　４階　大会議室		
参加者数	３０　名	幹事市	稲城市

テ　ー　マ	シビックプライドで活性化する地域コミュニティ ～住民の役割と行政の関り～
形式（方法）	・基調講演 ・事例発表

【概要】

○　開　会（１０：００～１０：１０）
開会挨拶：安東　道正（稲城市社会教育委員の会議　議長）
主催者挨拶：長畑　　誠（東京都市町村社会教育委員連絡協議会　会長）
開催市挨拶：加藤　　明（稲城市教育委員会教育部長）

○　第１部（１０：１０～１１：１０）
【基調講演】
演題：地域の学びとシビックプライド
講師：東京理科大学教授　伊藤　香織氏

（質疑応答）

○　第２部（１１：２０～１１：５０）
【事例発表１】
テーマ：市民団体と地域活性化
～いなちちの会から広げたコミュニティ～
発表者：橋　謙太氏

【事例発表２】
テーマ：稲城のいいところを次世代に繋げるための方策・構想
発表者：稲城市社会教育委員の会議　副議長　渡邉　真砂子

○　閉　会（１１：５０～１２：００）
まとめ：安東　道正（稲城市社会教育委員の会議　議長）
閉会挨拶：土屋　和子（日野市社会教育委員の会議　議長）

東京都市町村社会教育委員連絡協議会

－第3ブロック研修会実施報告－

八王子市　日野市　町田市　多摩市　稲城市

概要

- テーマ　シビックプライドで活性化する地域コミュニティ
  ～住民の役割と行政の関わり～
- 日　時令和3年11月12日（金）
  午前10時～正午
- 会　場稲城市地域振興プラザ
  4階大会議室
- 参加者30名　※主催者含む

概要（プログラム）

- 開会
  [illegible]
- 第1部
  基調講演　講　師：東京理科大学 教授 伊藤 香織氏
  テーマ：地域の学びとシビックプライド
- 第2部
  事例発表１　講　師：橋 謙太氏
  テーマ：市民団体と地域活性化
  事例発表２　講　師：渡邊真砂子氏
  テーマ：稲城のいいところを次の世代に繋げるための方策・構想
- 閉会
  まとめ　稲城市社会教育委員の会議 議長　安東 通正氏
  閉会挨拶　日野市社会教育委員の会議 議長　土屋 和子氏

（基調講演）

- 講　師　東京理科大学 教授 伊藤 香織氏
- テーマ　地域の学びとシビックプライド
  建物などのハードやYouTubeで展開した動画配信・植物を増やすことや商店街の活性化などを通じた
  海外・日本のシビックプライド成功事例
- 所　感
  ・楽しく分かりやすい事例中心の講演
  ・時間の都合上、多くに触れていただくことは難しかったが、継続に向けた対策などを更に知りたい

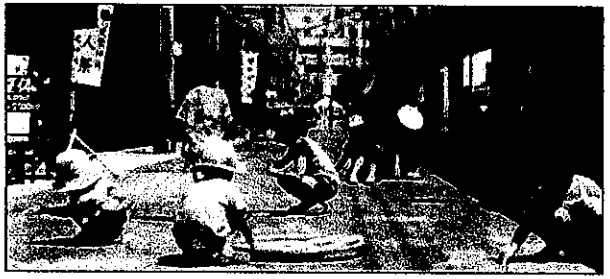
講演概要

講演における事例紹介
（インクレディブル・エディブル
トッドモーデンの事例）

トッドモーデン（イギリス）

※出典『CoaLa』

上古商店街（若者の街カミフル）



講演における事例紹介
（新潟市上古町商店街の街おこし）

※出典『新潟県上古町商店街振興組合 公式ウェブサイト』

シビックプライドとは？

➡自分自身が関わって地域を良くしていこうとする、当事者意識に基づく自負心！

事例発表１（稲城市）

- ➡発表者　事例発表１　橋 謙太氏
- ➡テーマ　市民団体と地域活性化
  ～「**いなちちの会**」から広げたコミュニティ～
- ➡講演内容　お母さん方を中心としたPTA活動と別に、子どもたちと遊ぶことが好きなお父さん方を中心とした様々な活動により子育て支援に取り組んでいる事例の解説。
- ➡所　感
  - ・楽しみながらやり甲斐と誇りを持って行われている子育て支援
  - ・内容に比して講演時間が不足していた

発表の事例写真
（いな父の会の事業風景）

※出典『いな父の会Face book』

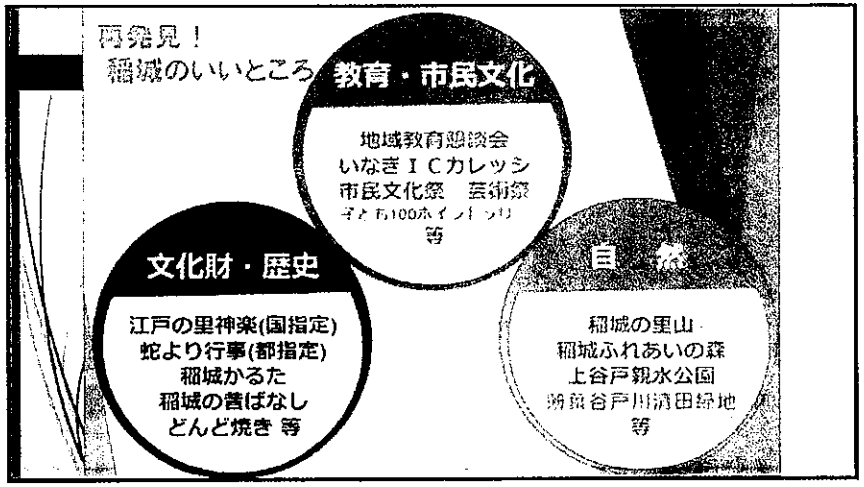
事例発表２（稲城市）

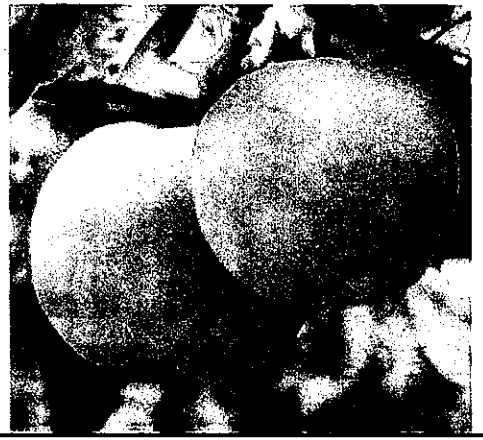
➡発表者　　事例発表２　渡邊 真砂子氏

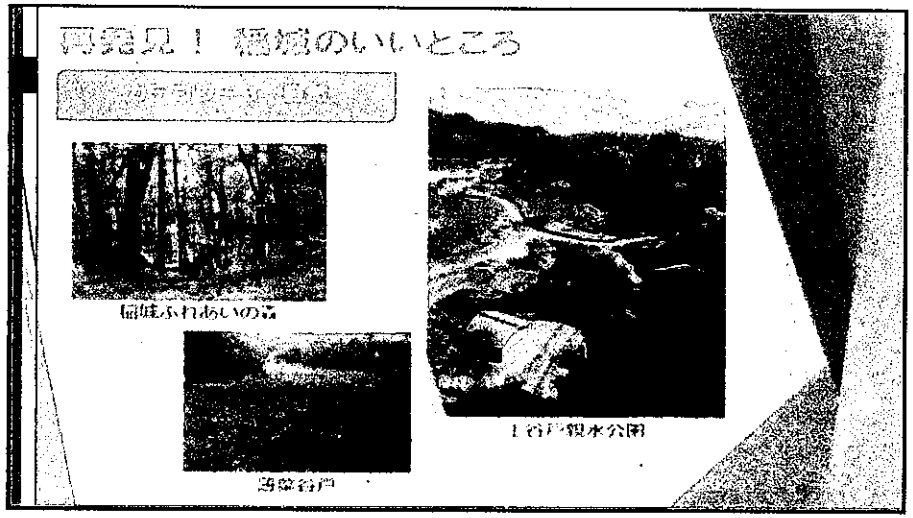
➡テーマ

稲城のいいところを次の世代に繋げるための方策・構想

～稲城市社会教育委員の会議 第26期提案～

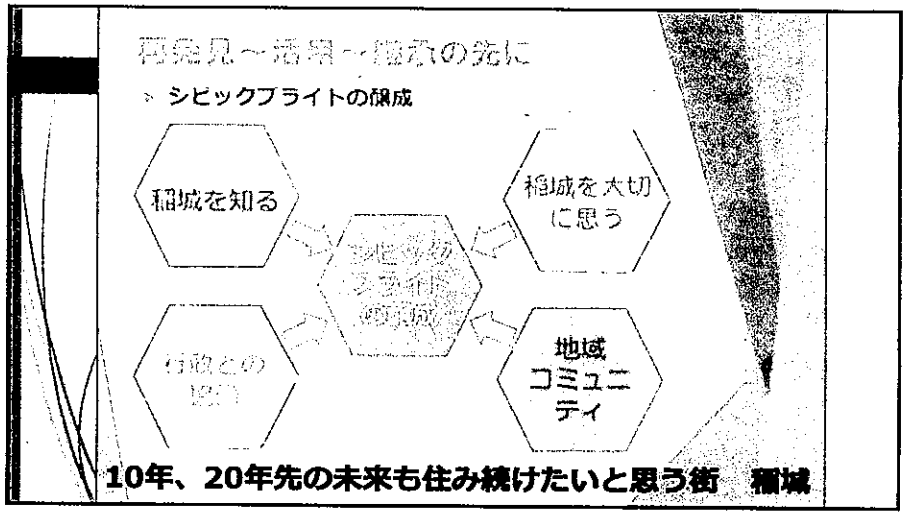





再発見！ 稲城のいいところ
上谷戸親水公園

稲城市文化祭・芸術祭

青渭獅子舞


再発見～活用～信頼の先に
シビックプライトの醸成
稲城を知る
稲城を大切に思う
地域コミュニティ
10年、20年先の未来も住み続けたいと思う街　稲城

御清聴
ありがとう
ございました
©K.Okawara・JET TOUR
稲城市
稲城市社会教育委員の会
議長　安東道正

第４ブロック研修会実施報告 報告者：東村山市社会教育委員の会議　議長 杉本　みさ子

開始日時	令和３年１１月１２日（金）１３時３０分～１６時３０分		
場　　所	東村山市民センター第１・第２・第３会議室		
参加者数	３０名	幹事市	東村山市

テ　　ー　　マ	～ＩＣＴ普及時代における地域づくり～
形 式 （ 方 法 ）	（１）講演 講師　佐原 香織　氏（社会芸術ラボ ORINAS 代表） （２）事例発表 発表者　道林 京子 氏(なかの生涯学習サポーターの会　会長) （３）グループワーク “Let's Try!”

【概要】

はじめに

第４ブロックでは、コロナ禍において否応なしに使わざるを得なくなってきたオンライン等、新しい生活様式に対応したデジタル化に着目し、「ＩＣＴ普及時代における地域づくり」を研究テーマに掲げ、参加者による実践を通した２部構成の研修会を企画した。

第１部では、講師による講演及び活動団体による事例発表を実施した。第２部では、“Let’ s Try!” と題し、講師のご指導の下、各グループで研修の成果を振り返るなどのグループワークを行い、参加者同士の情報共有を図った。

１　講演「実践してみよう！ 新しい時代に向けたコミュニケーションのあり方」
講師　佐原 香織　氏（社会芸術ラボ ORINAS 代表）

新しい時代を迎え、対面による人との関りから、パソコンやスマートフォン等、ICT を活用したオンラインによるコミュニケーションが生活の一部となってきた今だからこそ、コミュニケーションの在り方を問い直し、日々の暮らしに活かすという趣旨でご講演いただいた。

昨今、電話、メール、SNS などコミュニケーションツールの使い分けに迷うこと、また、これらのツールの発達により、対面による丁寧なかかわりができない不安感があるといった声が聞かれるが、これらの解決策につながるのが、「場」に応じて、柔軟に人と人とのつながり方（対話の仕方）を考え、組み立て、実行すること、すなわち「『場』に適したコミュニケーションをデザインするチカラ」である。

コミュニケーションをデザインするために以下に挙げる要素が不可欠となる。

（１）３つのフェーズ（Phase）

①グランドルール　～基本的なルール、マナーの共有～
その場に最適な「運営方法」の共通理念

②リテラシー　～活かす力～
その場に最適な「活用方法」

③リフレーミング　～捉え直し～
固定概念にとらわれず、物事を多角的に観ること

（２）コミュニケーションをデザインするポイント

①When・・・今
②Where・・・ここで
③Who・・・あなたが
④What・・・人とのかかわり
⑤Why・・・つなぐため
⑥How・・・出会いと化学反応を楽しみながら
⑦How much・・・プライスレス
⑧How many・・・多様性は無限大
⑨How fun・・・面白がる

（3）コミュニケーションのあり方を問い直す

①ヒエラルキーからフラットへ

対等な立場で、全員で意思決定をしていく非階層型のスタイル

②つないで、認め合い、活かしあう

・多様な人財が個々の属性や価値観の違いを認め尊重し合うこと ダイバーシティ

・多様な人財の能力を活かし互いに認め合うことで違いを変革の原動力に変えること インクルージョン

③暗黙知から形式知へ

・経験や勘といった言語化が難しい主観的な知識を暗黙知というのに対し、文章や計算式、図表などで説明できる知識を形式知という。「論理的構造で説明できる」客観的に捉えられる知識であることが大きな特徴である。

④情報収集から情報共有へ

デジタルの介入による中央主権型から民主的な分散ネットワーク型への変化

⇒双方向でつなぎ合う

2　事例発表「学びを自分のものにして　深める・つなげる・・・」

発表者　道林 京子 氏

（なかの生涯学習サポーターの会　会長）

佐原氏の講演を踏まえ、ICT を活用した生涯学習活動の具体的な事例を発表していただいた。

当団体は、中野区教育委員会主催の「生涯学習サポーター養成講座」の修了生２３名にて２００７年に発足し、以来、主催する「生涯学習サポーター養成講座」を通じて、地域活動をサポートする人材を育成するほか、区民参加のイベントや講座の開催、区民の生涯学習活動情報の発信としてなかの ZERO の生涯学習サイト「なかの学び場ステーション」での活動団体紹介等も実施するなど、区民、行政、指定管理者との三者協働で活動している。

オンライン会議、ホームページの作成、動画配信、クラウドファンディングなどの ICT ツールを駆使し、時代に合わせた活動を推進している。また、ユニバーサルデザインマップの作成など、区民向けの講座を展開するに当たり、ボランティアの主体性と矜持、自由な発想で地域や行政を超えたつながりを大切にすることが地域に根差す生涯学習活動を行う上で重要になることをご説明いただいた。

3　グループワーク “Let’s Try!”

（1）オリジナル教育開発カード「アイシテル（I see tell）カード」によるアイスブレイク

各グループで順番を決め、１番目の人が机上に並べた複数のカードから１枚を選び、書かれている「問い」を声に出して読み上げ、直感的に「はい」か「いいえ」で答える。他の人がその答えに対し、肯定的に関心を寄せて、「例えば？」などと温かく問いかけることにより楽しい対話が生まれ、自然と自分自身を客観視する力を育み、自己肯定感や自己有用感を高めることができる効果がある。

第４ブロック各市の委員及び事務局職員で構成された各グループのメンバーが、ほぼ初対面にも関わらず、相互に関心を持ちながら積極的にコミュニケーションをとることができ、カウンセリングや面接など、人と人との対話が必要な場面において、大変効果的であることを参加者が実感することができた。

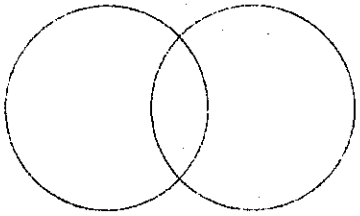
（２）テーマによるトークセッション

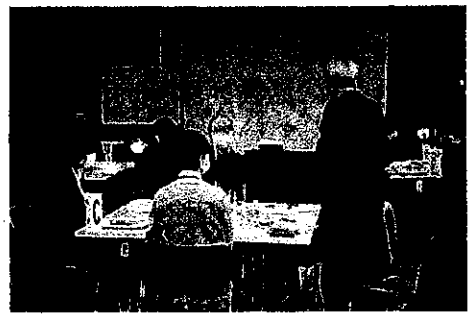
「２つの円」をモチーフにしたワークショップシートを使用し、コロナ禍でによって、「意識が変わったこと」、「行動が変わったこと」について各グループでトークセッションを行った。

講師からご教授いただいたトークセッションのポイントは、相槌を打つときなど「ああ、そうなんですね。」というように「『ん』を入れて聴く」こと、そして、「肯定的に関心を寄せて、聴く」ことである。

上記のポイントを踏まえて各グループの参加者がトークを交わすことにより、情報共有を円滑に行うことができ、トークの全体シェアを目的としたグループ発表においても、代表者がグループ内で交わされたトーク内容を分かりやすく集約して発表し、各グループの参加者が発表内容に深く関心を寄せ、しっかりとうなずきながら傾聴している様子が多く見受けられた。

OKINAS ワークショップシート





4　総括

講演の主題である「新しい時代に向けたコミュニケーションのあり方」について、講師の佐原氏より総括していただいた。

情報を「つなぐ」担い手としての社会教育委員の役割は、今後ますます重要となる。 つまり、適切な IT を活用しながら、場に応じたコミュニケーションをデザインするために、重要なキーパーソンなのである。

5　参加者の感想

講演

・講義がわかりやすかった。つなぐ使命を意識した。
・「つなぐ」というキーワードを示し、社会教育委員の役割について語っていただき、大変勉強になった。
・日々日常で役に立つ内容であった。
・まさに、これからの時代に必要だと思えたこと、社会教育委員の役割についても端的に示していただけて良かった。
・これからのコミュニケーションの取り方、デジタル時代の考え方が参考になった。
・オンラインでのやり取りで心がける事柄を知ることができた。
・どんな時代を迎えようともコミュニケーションの根本が意思伝達であるということを改めて認識できた。ところどころにツールの活用術も盛り込まれ、参考になった。
・大学教授として、コロナ禍でも学生とのコミュニケーションを模索しながら工夫してこられた講師の経験に基づいての説明は、非常に説得力があった。コロナ禍において、仕事でもプライベートでも皆が課題としている部分なので、とてもためになったと感じている。

事例発表

・事例発表において、ボランティア団体代表者の目線で、コロナ禍において、どのようにグループをまとめてきたかを伺うことができて良かった。
・超高齢化に社会に向けて、孤独感を感じさせないコミュニティを作ることは、どこの市町村でも喫緊の課題だと思うので、内容として適当だと感じた。
・事例発表の内容も参考になり、できる範囲で実践してみたいと思った。
・グループライン、メール、WEB 会議システムなど、様々な通信手段を工夫しながら使って、サポーターの繋がりを絶やさずにまとめてきた経験を伺え、貴重な事例の一つとして受け止めることができた。
・「『なかの生涯学習サポーターの会』は解決をする会ではなく、共有して考えていく会」という言葉がとても印象に残った。
・「なかの生涯学習サポーターの会」が手掛けているユニバーサルマップの作成は必要性を感じた。
・活動を発展させていくためには、いろいろな人や団体とつながることが大切なのだと改めて感じた。
・楽しみながらボランティア活動を行うのは素晴らしいと思った。
・仲間を増やしていく手法や長続きする会の運営事例が参考になった。
・大人同士の ICT を使った社会教育のあり方（SNS、WEB 会議システムの使い方を教え合う等）が解った。

グループワーク

・グループワークにおいて、他市の社会教育委員とコミュニケーションの方法について、掘り下げた話や意見交換ができて良かった。
・「アイシテル（I see tell）カード」、ワークショップシート「２つの円」もコミュニケーションを取りやすい導入、かつ深めるものであった。

・カードを使ったことによりグループ内で打ち解けることができた。
・参加者の皆さんの話される内容から自分を振り返る、客観視できるという面白さがあった。
・様々な方々のご意見が聞けて良かった。相手を尊重する姿勢は大切である。コミュニケーションは一人で完結することではなく、聞き手の態度によっては、話し手がコミュニケーションを好きだとか得意だとか感じるようになるかもしれないと思う。
・講演を聴いて実践するのは初めての体験であり、新鮮であった。聴いただけでは忘れてしまいがちなので、グループワークがあって良かった。
・「アイシテル（I see tell）カード」を他の場面でも利用したいと思った。

全体の振り返り
・皆が悩み苦しんでいる部分について切り込んだテーマだったので、とても有意義な研修会だと思った。
・講演、グループワーク共にとても暖かい空気で、楽しかった。
・研修を終えたとき、満足した気持ちになれた。
・人と関わるための創意工夫、まだまだ自分にもやれることはたくさんあると思えた。

６　講師・事例発表者紹介

佐原 香織 氏

大学卒業後、メーカーのマーケティング部門にて、クリエイティブディレクターや、ブランディングプロデューサーとして、東京モーターショー等のイベント企画など、広報宣伝・商品プロモーションを担当。その後、ICT プロデューサーとして、企業及び商品ジャンルのホームページの企画、またチームビルディングを中心とした企業研修のファシリテーターとして活躍。

独立後は、千代田区立九段生涯学習館副館長、横浜市社会教育委員、山形県社会貢献助成基金審査員など、行政にも携わり、２０１５年から２０２１年には、東北芸術工科大学芸術学部美術科の教授を務めた。

現在は、社会芸術ラボ ORINAS 代表として、東京と山形を拠点に感性を生かしたオリジナルメソッドによる人材育成中心としたコミュニケーションワークショップを展開している。

道林 京子 氏

「なかの生涯学習サポーターの会」会長として、近年、千代田区の NPO との協働でバリアフリーマップ関連事業を展開。

これまで、中野区次世代育成委員、社会教育委員などを歴任。

現在、中野区社会福祉協議会「いきいきプラン」推進委員会委員を務める。

※「なかの生涯学習サポーターの会」については、「２　事例発表」の項参照

第５ブロック研修会実施報告

報告者：狛江市社会教育委員の会議　委員長 塚越　博道

開始日時	令和３年11月20日（土）　13時30分～16時20分		
場　　所	狛江市防災センター４階会議室		
参加者数	27名（委員21名・事務局６名）	幹事市	狛江市

テーマ	「新しい生活様式における社会教育の実践」
形式（方法）	（１）講演「住職が考える、コロナ禍における生活様式の変化」 講師　張堂 興昭　氏（調布市深大寺住職） （２）グループ討議　「新しい生活様式における社会教育の実践」 委員３グループ・事務局１グループで実施

【概要】

第５ブロック研修会は、参加者27名（委員21名・事務局６名）で行った。狛江市からは教育部長、教育長が出席し、谷部都市連副会長、次期幹事市の板垣武蔵野市社会教育委員の会議議長にご挨拶をいただいた。

研修会については、社会教育委員の会議で１年半に渡り検討を重ね、コロナ禍により新しい生活様式の導入が進むなか、どのように社会教育を進めていけばよいのかということについて、意見を出し合い共に考えるため「新しい生活様式における社会教育の実践」とした。

研修会の形式は、講演とグループ討議の二部形式とし、寺子屋や講など、古くから寺社がコミュニティ施設や社会教育施設としての役割を担ってきているという視点から、「新しい生活様式における社会教育の実践」についてのヒントがもらえると考え、講演は、深大寺住職の張堂 興昭氏をお招きした。グループ討議は、結論を出すことではなく、意見を出し合い共に考えることを目的とするため、付箋を用いたブレーンストーミング形式とすることとした。

（１）講演　「住職が考える、コロナ禍における生活様式の変化」

調布市深大寺住職の張堂　興昭氏を招いて講演会を行った。

（２）グループ討議　「新しい生活様式における社会教育の実践」

委員３グループ・事務局１グループに分かれ、「新しい生活様式における社会教育の実践」をテーマとするグループ討議を行った。

＜出された意見のまとめ＞

オンラインの活用、ハイブリッド式の導入、コロナ化を逆にチャンスととらえること等のキーワードが上げられた。コロナ禍では、家族、友人等の近しい者とのつながりや、自己を振り返ることの重要性が再認識できた。一方で広範囲の交流、外とのつながりが遠のいてしまった。自己との対話や身近なつながりを大切にしつつ、オンラインを活用しながら、失われたつながりをどのように取り戻していけるかがこれからの社会教育活動の課題ではないか。

＜終了後のアンケートから＞

・「己を忘れて、他を利する」そうなりたいと意識するだけで人の行動は変わると私も思うので実践していきたいと思いました。

・コロナに振り回されたこの一年半を、客観的に考えることができる良い機会となった。

・なかなかご住職のお話を聞くことがないので、大変貴重な機会に参加することができて、ありがたかったです。グループ討議も有意義な時間でした。

第５ブロック研修会実施報告

「新しい生活様式における社会教育の実践」

狛江市社会教育委員の会議
令和3年12月11日

研修会概要

日時・場所・参加者数
日時：令和３年11月20日（土）13時30分～16時20分
場所：狛江市防災センター４階会議室　　参加者：27名（委員21名・事務局６名）

内容
（1）講演　「住職が考える、コロナ禍における生活様式の変化」
講師：張堂 興昭　氏　天台宗別格本山深大寺第89世住職　天台宗明静院第31世住職　大正大学講師

（2）グループ討議（発表・まとめ）
「新しい生活様式における社会教育の実践」
・コロナ禍において日常生活や社会教育活動などはどのように変わったか？
（プラスと感じたことやマイナスと感じたこと）
・Withコロナとしてどのように社会教育活動を行うのが良いか？

※挨拶・来賓
開催市挨拶　　狛江市教育長　柏原　聖子　・　狛江市社会教育委員の会議委員長　塚越　博道
来賓祝辞　　谷部　憲一　様（東京都市町村社会教育委員連絡協議会副会長）
次期幹事市挨拶　板垣　文彦　様（武蔵野市社会教育委員の会議議長）
閉会の辞挨拶　　狛江市社会教育の会議副委員長　中川　康弘

2

開催までの準備・検討

研修会については、狛江市社会教育委員の会議で1年半に渡り検討を重ね、コロナ禍により新しい生活様式の導入が進むなか、どのように社会教育を進めていけばよいのかということについて、意見を出し合い共に考えるため「新しい生活様式における社会教育の実践」とした。

研修会の形式は、講演とグループ討議の二部形式とし、寺子屋や講など、古くから寺社がコミュニティ施設や社会教育施設としての役割を担ってきているという視点から、「新しい生活様式における社会教育の実践」についてのヒントがもらえると考え、講演は、深大寺住職の張堂 興昭氏をお招きした。グループ討議は、結論を出すことではなく、意見を出し合い共に考えることを目的とするため、付箋を用いたブレーンストーミング形式とすることとした。

3

（1）講演
「住職が考える、コロナ禍における生活様式の変化」

◎地域と寺
念仏講・ご詠歌講・写経会　法事やお通夜での法話
何をやってもだめ　何もしないというのもだめ
開山以来の開門拝観停止、分散初詣　年中行事の中止縮小、講の中止

◎法身説法
釈迦牟尼をば毘盧遮那遍一処と名づく『普賢観経』
心、仏、衆生、この三、差別なし『華厳経』
森羅万象、水鳥樹林の声はみな仏の説法である

◎伝教大師最澄
・悪事を己に向かえ、好事を他に与え、己を忘れて、他を利するは慈悲の極みなり
・日本人の平均身長　古代そして江戸から明治現代
・菩薩としての生き方　生活・人生全般　生きているうちに早く気付くべき

4

◎国土苦楽

（中世日本天台で盛んに行われた仏教論義のなかの一つのお題）

問う、国土の苦楽（災害）は、衆生の業（人間の身口意のなす行為）感なりや。はた諸仏の変現なりや。問う、ともにその意あるべきなり。

およそ国土苦楽の報は必ず善悪の因による。いかでか諸仏の変現なるべきや。答う、諸仏の慈悲、苦楽の国土を変現して、衆生を「折伏（悪人をくじき伏すこと）・摂受」す。難じていわく、依正千差、苦楽万品、みなこれ衆生の業感にして、善因、楽を感じ、悪業、苦を受くることを…。

◎我慢について

※自己の中心に我があると考えそれを拠り所として心が驕慢であること、心のおごり

コロナ禍の大学生　オンライン授業　面授口決⇔口伝

柔和忍辱の法『法華経』　深大寺釈迦如来の姿と私たち

画像提供：調布市

5

（2）グループ討議

「新しい生活様式における社会教育の実践」

＜流れ＞

（1）自己紹介、役割決め

（2）個人ワーク

（3）グループ内で共有

（4）意見交換

（5）まとめ・発表準備

（6）発表・全体共有

6

（2）グループ討議

「新しい生活様式における社会教育の実践」

＜感染症予防対策＞

換気を行いつつ、席の間隔を広くし、密にならないようにこころがけました。

普段部屋で使うパーテーションを机の上に置き、参加者間の区切りとしました。

＜グループ討議の様子＞

個人ワーク

グループ内で共有

発表・全体共有

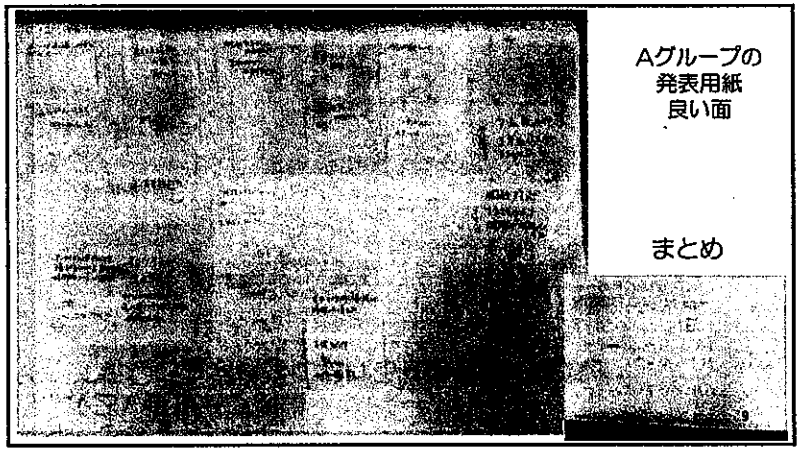
ファシリテーターのコメント

7

グループ構成

参加者の所属	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	参加者の所属	ｸﾞﾙｰﾌﾟ
三鷹市	A	調布市	C
調布市	A	府中市	C
武蔵野市	A	武蔵野市	C
武蔵野市	A	狛江市	C
小金井市	A	狛江市	C
狛江市	A		
参加者の所属	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	参加者の所属	ｸﾞﾙｰﾌﾟ
調布市	B	事務局	D
府中市	B	事務局	D
武蔵野市	B	事務局	D
小金井市	B	事務局	D
狛江市	B	事務局	D
狛江市	B	事務局	D

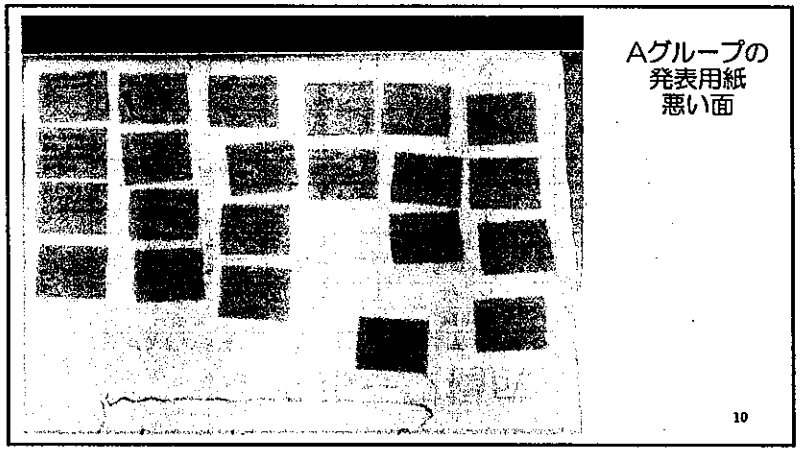
8



Aグループの
発表用紙
良い面

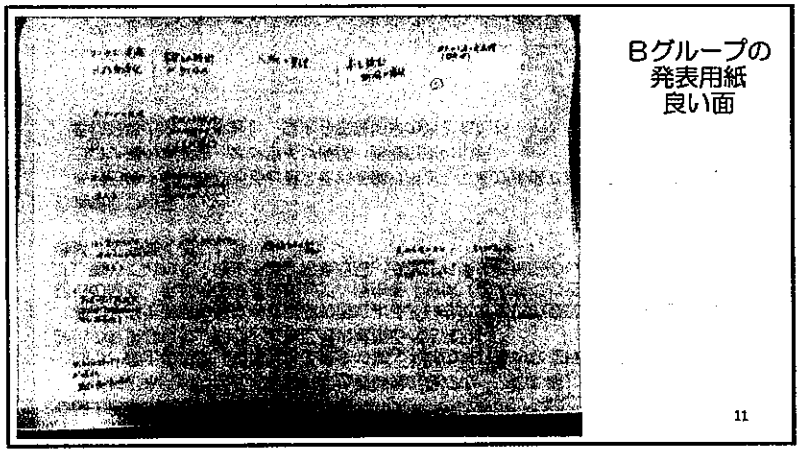
まとめ

9



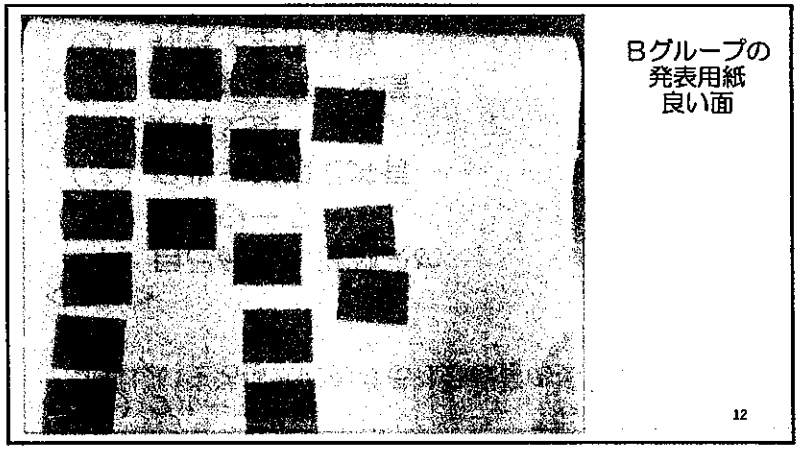
Aグループの
発表用紙
悪い面

10



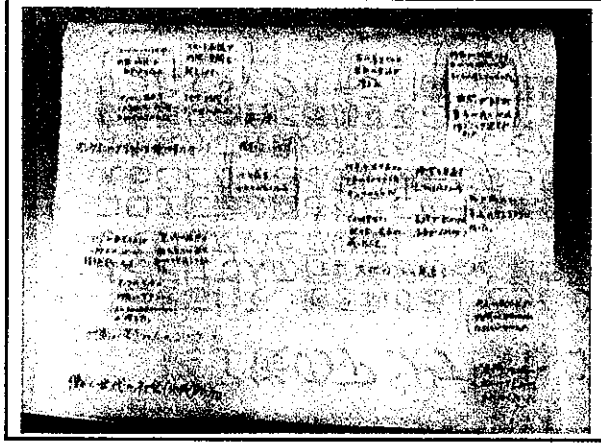
Bグループの
発表用紙
良い面

11



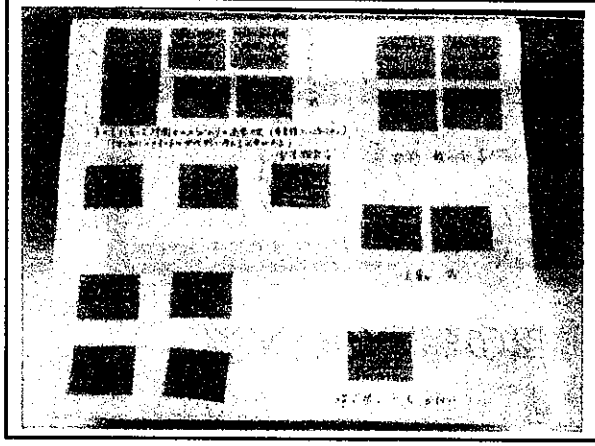
Bグループの
発表用紙
良い面

12



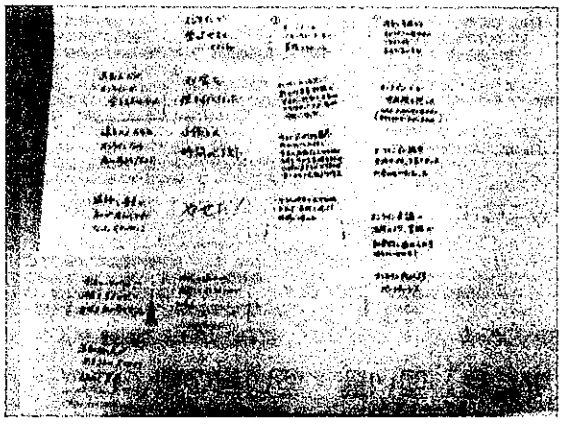
Cグループの
発表用紙
良い面

13



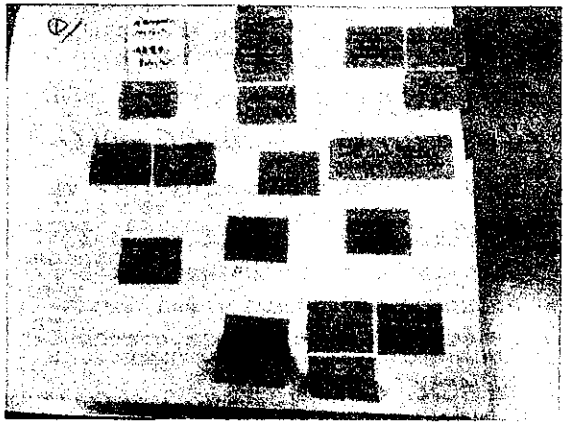
Cグループの
発表用紙
悪い面

14



D（事務局）グループ
の発表用紙
良い面

15



D（事務局）グループ
の発表用紙
悪い面

16

コロナ禍の良い面・悪い面（各グループの意見）

時間に余裕ができた

○自分の時間が持てる、使えるようになった
○人脈の整理や本を読むこと
○自分の生活を見直すきっかけ、再発見
○子どもとの時間が増えた

からだへの影響

○健康
△運動ができない
○やせた

場所の変化（オンライン化）

○電車や自動車の移動が楽・集中力が高まった
○高齢者の方がデジタル化への対応を頑張っている
○オンライン化による利便性、活用
○オンラインショッピングが増えた
△旅行、地元での飲食ができない
○オンラインで学びやすい、遠方でも参加可能
△事業、イベントが中止、縮小になった。
△検温、消毒の作業が大変
△市の施設の利用制限により、生涯学習を行う団体の活動の機会が減る。
△安否確認が難しい

コミュニケーション

△対面でのコミュニケーションが減る
△人と会わない
△継続的な人とのつながりがなくなる
○地元の人との交流・友人や知人が気になり、丁寧に連絡する
△コミュニケーションンが取れない・孤独、孤立、人に会えないストレス
△コミュニケーションの難しさ、マスクをしているので表情が読み取れない
△活動、飲み会が減った
△子どもの行事がなくなり、けじめがつかなくなる

17

各グループの発表

・オンラインを活用し、増えた時間で社会教育を行っていくのではないか。アフターコロナが楽しみ。
・つながりがなくなったこと（危機意識）を皆で共有しているので、コミュニティ再生のチャンスではないか。
・一緒にいるだけでも学べる。皆が持っている危機意識の受け皿づくりを行いコミュニティをつくっていく。
・オンラインの中でも機器を駆使すれば（360度カメラなど）リアルに近づける工夫ができるので、身につけたい
・これからもオンラインを活用してはどうか。演劇の稽古もハイブリットで行っている。誰かがコロナにかかっても稽古だけは続ける。こうした研修会もハイブリッドでできればよい。
・オンラインの活用は、参加できない方のためにも有効
・対面、オンラインそれぞれの良さがある。今後のイベント等はハイブリッド式で進めたい。

グループ討議のまとめ（ファシリテーター）

オンラインの活用、ハイブリッド式の導入、コロナ化を逆にチャンスととらえること等のキーワードが上げられた。コロナ禍では、家族、友人等の近しい者とのつながりや、自己を振り返ることの重要性が再認識された。

一方で広範囲の交流、外とのつながりが遠のいてしまった。自己との対話や身近なつながりを大切にしつつ、オンラインを活用しながら、失われたつながりをどのように取り戻していけるか。

SDGs等で掲げられる「誰ひとり取り残されない」を実現するためにも、身近なつながりを内省、維持し、オンラインを活用しながら、失われた外とのつながりをどのように取り戻していけるかが自指すべき社会教育活動ではないか。

18

終了後のアンケートから

- 「己を忘れて、他を利する」そうなりたいと意識するだけで人の行動は変わると私も思うので実践していきたいと思いました。
- コロナに振り回されたこの一年半を、客観的に考えることができる良い機会となった。
- なかなかご住職のお話を聞くことがないので、大変貴重な機会に参加することができて、ありがたかったです。グループ討議も有意義な時間でした。

19

深大寺の客殿の掛軸

20

第２部　社会教育委員研修会

郷土芸能を地域で受け継ぎ、発展させる
～武蔵国府太鼓の紹介とインタビュートーク～

武蔵国の中心地として栄えてきた府中市は、昔から太鼓と深いかかわりを持ち、その伝統を受け継いできました。武蔵国府太鼓は、このような歴史と伝統に培われたふるさと府中に新しい郷土芸能をつくりたいとの願いから昭和 57 年（1982 年）に創作されました。伝承普及のため武蔵国府太鼓を愛好する市民グループで結成された「武蔵国府太鼓連盟」が演奏活動と演奏者を育てる講習会を行っています。

響会は、武蔵国府太鼓連盟を構成する３つの会の一つであり、府中市の郷土芸能として市民芸術文化祭や会社・団体などの記念式典、病院や老人ホーム等のイベントで公演する他、オリンピックや国体、ラグビーワールドカップでも演奏を披露し、ハワイや韓国、ウィーンでのイベントにも参加しています。

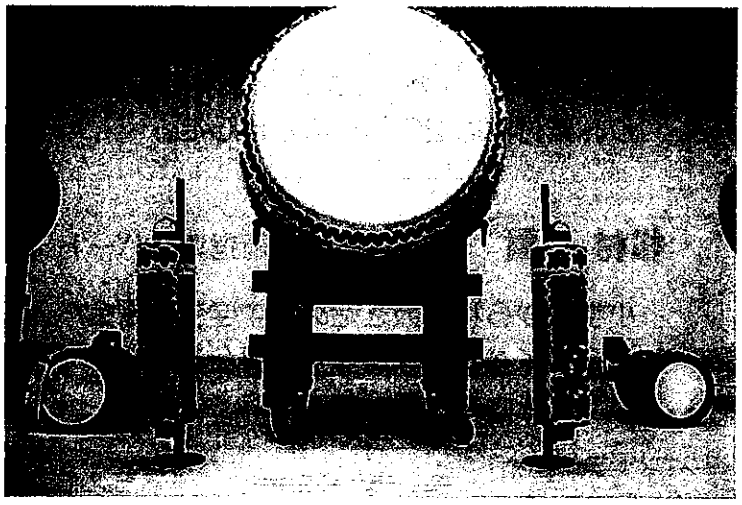
＜紹介する曲＞

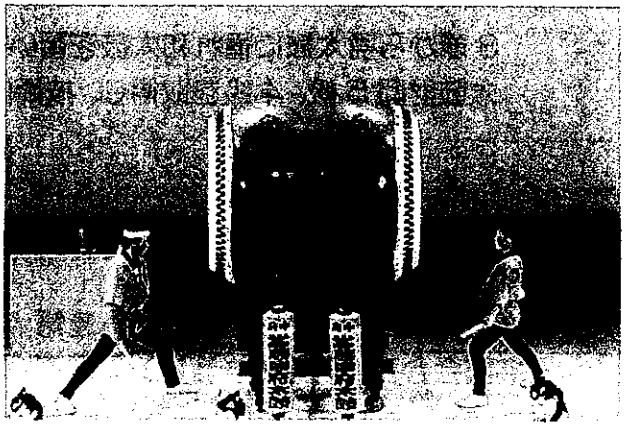
乱れ打ち

分倍河原合戦太鼓

国府のうたげ

仕舞拍子





＜インタビュートーク参加者紹介（敬称略）＞

佐藤　祐三（武蔵国府太鼓連盟会長、響会会長、パート：中太鼓）

10年前にサラリーマンからラーメン屋に…

市川　　彰（武蔵国府太鼓連盟事務局長、響会会長代行・技術指導、パート：大太鼓）

市民講習会の第10期生として卒業後、響会に入会。今日まで、約30年に渡り培った経験を活かし、会員の技術向上だけでなく、未来伝承者の育成と武蔵国府太鼓の発展を目指し、小学校和太鼓クラブの講師等も務めさせて頂いております。

伊藤　三子（武蔵国府太鼓連盟役員、響会副会長、パート：小太鼓）

様々な年齢層の仲間との練習や演奏会に参加が出来た喜びと家族の応援もあり、気付けば20年になりました。

松村　　薫（響会役員・技術指導、パート：小太鼓）

小学生から和太鼓を始め、中学生で響会へ入会。高校は、和太鼓部へ入部し、大会やイベントなど多くの舞台を経験してきました。和太鼓の魅力を伝えられる演奏を心がけています。

田中　礼侍（響会ジュニアリーダー、パート：大太鼓）

3歳から盆太鼓に憧れ和太鼓を習い始め、7歳より響会に入会しました。日本太鼓財団5級、4級を取得し、技術向上を図り、日々練習を頑張っています。

インタビュアー：**長畑　誠**
（東京都市町村社会教育委員連絡協議会会長、明治大学教授）

令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会
交流大会・社会教育研修会冊子

発行年月　令和3年12月
編集・発行　東京都市町村社会教育委員連絡協議会